

玉田工業株式会社



1

TOP MESSAGE

実際の進出を経て、海外進出は主たる事業が軌道に乗っているタイミングで行うことが肝要だと感じました。事業が好調で忙しい時期には目の前のことで精いっぱいになりがちですが、だからこそ一歩、二歩先を見据えた構想をもつことが重要です。

今後、ベトナム事業を進める上で現地のインフラ整備がポイントとなってきます。陸海の輸送方法とコストのバランスは難しく、複数国の出入国制限なども影響しています。インフラが整備されるにつれ、輸送コスト削減が見込まれることから、地理的優位性の高いASEAN諸国への展開も視野にいれ、事業拡大を図りたいと考えています。

会社設立・1957年7月
社長・玉田 善明
資本金・5,250万円
従業員数・253人

〒920-0332
石川県金沢市無量寺町ハ61-1
TEL.076-267-4888
FAX.076-267-5145
<http://www.tamada.co.jp/>



- 1 社長室に飾られる創業者・玉田善仁氏の銅像。現社長・玉田善明氏の手作りだという。
- 2 中国への技術供与をはじめ、案件化調査の際にも活躍した、技術部門の東崎さん。
- 3 周りのスタッフと協力し合いながら日々製品の品質向上に努めている。
- 4 3代目社長を務める玉田善明氏。海外視察へは自ら何度も足を運んだという。

可能性を求めてベトナムへ 進出のプロセスと成果

地下タンク、各種貯水槽などの設計や製造、施工を手掛ける『玉田工業株式会社』。その歴史は1950年、ガソリン計量器の販売から始まった。以来、ガソリンスタンドの地下タンクを主とする石油業界に軸足を置き、特に「SF二重殻タンク」においては国内約70%と圧倒的シェアを誇る。

タンク以外にも多様な製品製造も行ってきたが、SF二重殻タンクに特化して製造してきたことで、その他のタンク製品や、タンク以外の鋼製板金製品を製造した経験を持つ技術者が少なくなつたこと、日本国内における石油業界自体の縮小化が進んだことから、危機感は募っていった。このことが契機となり、販路拡大に向けて東南アジアを含めた新しい市場へ目を向け始めた。また製造原価の低減や人件費削減を狙った他、改めて国内技術の再構築を図りながら、製缶業としての可能性にチャレンジすることを目標に掲げた。そして既にベトナムへ進出している地元企業とベトナムへ現地視察に訪れたことが契機となり、ベトナムへの進出を決意した。その後、JICA「危険物貯蔵地下タンクの案件化調査」の採択を受け、市場調査を進めながら、2013年12月の『タマダベトナム』設立に至った。

前述の通りベトナムでは、これまでタンク製造で培ってきた製缶加工技術や溶接技術を生かし、タンク以外の鋼製溶接構造物の設計、製造、販売に挑戦している。また、ベトナム日系企業に対し、「こういったものは必要ないですか？」という提案型の営業戦略を進め、タンク以外の製品への引き合いは増加傾向にある。こうした動きは国内事業にも好影響を与えた。海外での取引をきっかけに国内法人へと取引が広がったり、これまで国内では取り扱ってこなかった製造品の引き合いも増えたりと、海外事業が国内事業へ波及しているという。

【知財ポイント】

タンク製造で培った
板金加工技術・溶接技術

【波及効果】

タンク以外製品製造へ
応用し、新市場を開拓

地下タンク、各種貯水槽などの設計や製造、施工を手掛ける『玉田工業株式会社』。その歴史は1950年、ガソリン計量器の販売から始まった。以来、ガソリンスタンドの地下タンクを主とする石油業界に軸足を置き、特に「SF二重殻タンク」においては国内約70%と圧倒的シェアを誇る。



- 5 同社で販売している完全防水、耐震構造のミニ地下室「デポエンジェル」。
- 6 原点となった手動式ガソリン計量器。ここからスタートした65年の歴史を思い返させてくれる。
- 7 ベトナム拠点で製造された4つのパーツをコンテナに入れ日本へ運び、現場で組み立ててタンクが完成する。
- 8 主力製品「SF二重殻タンク」。「FSF 防火水槽」と合わせてベトナム周辺諸国へも国際特許出願を行なっている。



教育、そして技術伝承に おけるコミュニケーション の必要性

当社では「人材」の確保、教育を最重視しており、特に核となるマネージャークラスの編成に努めてきた。また製造スタッフにおいては、ベトナム人の手先の器用さに着目し、溶接や曲げ作業を中心とした業務を任せている。実際に成果をあげ、活躍は目覚ましいものだという。教育面についてはベトナム人スタッフを日本に招聘し、研修を行うことで、技術や意欲向上を目指している。指導を進める上でも、コミュニケーションは欠かせない。特に製造に従事するスタッフとのコミュニケーションには細心の注意を



2012年に設立した『タマダベトナム』の工場。ハイフォン港が近く、海上輸出へのアクセスが良好。

払っており、うまく意思疎通が図れると期待以上の働きをみせてくれることが多いという。

また定着率を高める上でも、各スタッフと密に意見交換し続けることで、スタッフたちの士気を高めることを目指している。ベトナムも日本と同じ一つの工場であるという認識をもち、日々の綿密なコミュニケーションを通じてタンク製造に係る技術を惜しみなく伝授しているという。特に製造や設計の重要な情報は特定のマネージャーに集約する形をとっている。そうしたキースタッフとの綿密なコミュニケーションこそが、信頼関係の構築に繋がり、離職率の低下、そして財産となる技術情報の流出を防ぐ大切な要素だといえるだろう。



8年前に増築された本社工舎。他にも国内に16の支社、営業所、工場を構え、8つのグループ会社をもつ。